

平成 28 年度第 1 回印西市教育振興基本計画文化芸術編検討委員会 会議録

1. 日 時 平成 28 年 7 月 7 日 (木) 午前 9 : 30 から午前 11 : 30 まで
2. 場 所 文化ホール 2 階 大会議室
3. 出席委員 板倉三郎委員委員長、西田裕子委員副委員長、竹内仁委員、横山護委員、渡邊衛委員、松井宏委員、武藤正凱委員、榎戸洋子委員
4. 欠席委員 なし
5. 事務局 印西市大木教育長、生涯学習課 飯島課長、鈴木、北林 山崎教育総務課参事
6. 傍聴者 なし
7. 議 事 (1) 印西市文化芸術の振興に関する基本方針について  
(2) 生涯学習課文化芸術関連事業説明について  
(3) 計画の策定方針(案)について  
(4) アンケート調査の概要説明(報告)  
(5) その他
8. 議事録 要点筆記

◇委員長及び副委員長選出

委員の互選により、板倉 三郎委員長、西田 裕子副委員長を決定した。

議事(1)～(4)

～事務局より(1)～(4)に関する資料を説明

委員長：本計画は、分野毎に4つの検討委員会で検討し、1つにまとめることになる。計画には「印西らしさ」「横断的な施策」がより大事になる。

委員：全体スケジュールの関係から、アンケートは既に印刷しているとの説明だが、やはり、事前に委員会に諮ってほしかった。市民アンケートの間30では市民の芸術鑑賞の実態が把握しきれないと思う。また、次回委員会から会議書類は事前に配付してほしい。

事務局：アンケートは、スケジュールと予算の関係から、早めに進めざるを得なかった。

委員長：計画が金太郎飴にならないよう、「印西らしさ」「印西市の良いところ」を活かしていきたい。アンケートは主に選択式の設問だが、自由意見欄の内容や提案も大事にしていきたい。

(休憩後)

委員：個人個人の活動から言うと、文化・芸術の範疇・定義が不明瞭である。例えば、編み物などは文化・芸術の範疇に入るのかがわからない。定義は難しいと思うが、委員会での議論の土台として、共通認識を持っておきたい。

委員：文化・芸術の定義は難しく、最終的には本人の認識に委ねられると思う。

委員長：食文化などもあり、人の営みはすべて文化とも言える。

委員：4つの計画で、特に生涯学習と文化芸術の範疇が重複しないようにしたい。検討委員会の上の策定委員会において、この計画で議論する文化・芸術の範疇を決めてほしい。

委員長：文化芸術編と生涯学習編を分けるため、より具体的な内容になるはずである。

委員：資料3の計画構成イメージで、文化芸術編の細目項目に「施設整備」も入れていきたい。文化ホールの老朽化対策にとどまらず、江東区の素晴らしいホールのように、印西市に「文化の殿堂」を整備していく夢を語っていきたい。

事務局：計画構成はイメージ段階である。今後の議論で細目項目も検討してほしい。

委員長：施設同士のネットワークも大事である。

委員：アンケートは、個人個人の意図で回答するものだが、回答が集まった結果は民意を反映した結果になると聞いている。

事務局：アンケート結果は民意と考えているが、委員会では集計結果を多角的な視点から検討していただきたい。

委員：案内人の活動は様々な分野と関わっている。その活動を通じて感じることは、各分野の施策が横断的につながることが大事だということである。

委員長：教育分野のみならず、都市マスタープランや環境計画も関わっている。

委員：園芸は趣味にみられるが、仲間でサークルを創って勉強していくことが大事である。そうした活動の中で、多くの市民を巻き込んでいきたい。

委員長：個人の活動にとどめず、広げていくことで、文化の輪がさらに広がることになる。

#### 議事（5）その他

～事務局より策定委員会の委員選出、ご意見シートの提出を依頼

◇委員会として、板倉委員長と西田副委員長を策定委員会の委員とする。

◇ご意見シートは、7月中に各委員から事務局への提出を依頼